

平成27年度 学校経営重点計画

1 学校教育目標

豊かな心をもち、自主性のあるたくましい人間を育成する。

2 目指す姿(学校像)

〈学校像〉○保護者、地域から信頼される学校
 ○基礎・基本の学力を定着させ、落ち着いたある文化的な学校
 〈生徒像〉○自ら学び考え、自主的に行動する、心身ともにたくましい生徒
 ○他人を思いやる心や感動する心をもつ生徒
 〈教師像〉○生徒・保護者・教職員とのコミュニケーションを充分とり、信頼される教師
 ○常に学びの姿勢をもち、向上心のある教師

3 現状と課題(重点目標設定理由)

現状

- 本校で取り組んでいる「KUデザインに基づく分かりやすい授業づくり」により、授業のめあてや流れについては90%の生徒が確認し、落ち着いて授業に参加している。しかし、自分の考えや意見を論理的に伝える、或いは記述・説明するという力が不足していると考えられる。
- 家庭学習の定着(1日1時間以上)が身につけてきている生徒は、一昨年度は73%と比較的高い数字を示し、昨年度は76%と3ポイント上昇した。しかし、家庭に戻って一人で学習することが難しい生徒も多数おり、学校で補える部分と家庭に任す部分とを確認する必要がある。
- 授業における特別支援を必要とする生徒も多く、各教科での指導内容や指導法の工夫・改善がさらに進まなければならないと考える。
- 昨年度の学校評価を通して、全体的に肯定的評価が高くなってきており、一定の成果は挙げてきている。
- 今年度で2年次となる短期目標の取組を深め、評価指標を達成できるように、具体的「教育ビジョン」を作成し、掲示する。

課題

- 「KUデザインに基づく分かりやすい授業づくり」の取組の継続と具体的な各教科指導の内容にまで踏み込んだ授業研究や校内研修が必要である。
- 家庭学習の定着では帰宅後の生活リズムの設定や家庭学習の習慣化と学習時間の工夫が必要であり、更なる保護者の協力が必要となる。「家庭学習の手引き」の活用等が課題として残っている。
- 学級集団づくりの視点から、教師と生徒、生徒同士の関わりの構築といった、学級づくり校内研修会ができていない状況がある。日々の活動を通して、生徒指導の3機能を生かした取組が必要とされる。また、生徒の自己肯定感を育て、楽しく安心して学校生活が過ごせる取組を生徒会と連携することが大切である。
- 家庭の手伝いの項目が毎年低い。手伝いという感覚より、生活そのものに子どもの役割が変化してきたのではないかと、家庭での子どもの役割や位置づけを考えて行く中で、質問項目自体の改善が必要であるように思う。
- 保護者へ分かりやすい評価の説明(補助簿的な資料)や通知表の見方等を工夫し、理解度を高めていく努力が必要である。また、教員の評価基準や観点別の妥当性や客観性、信頼性を高めていく研修も考える。

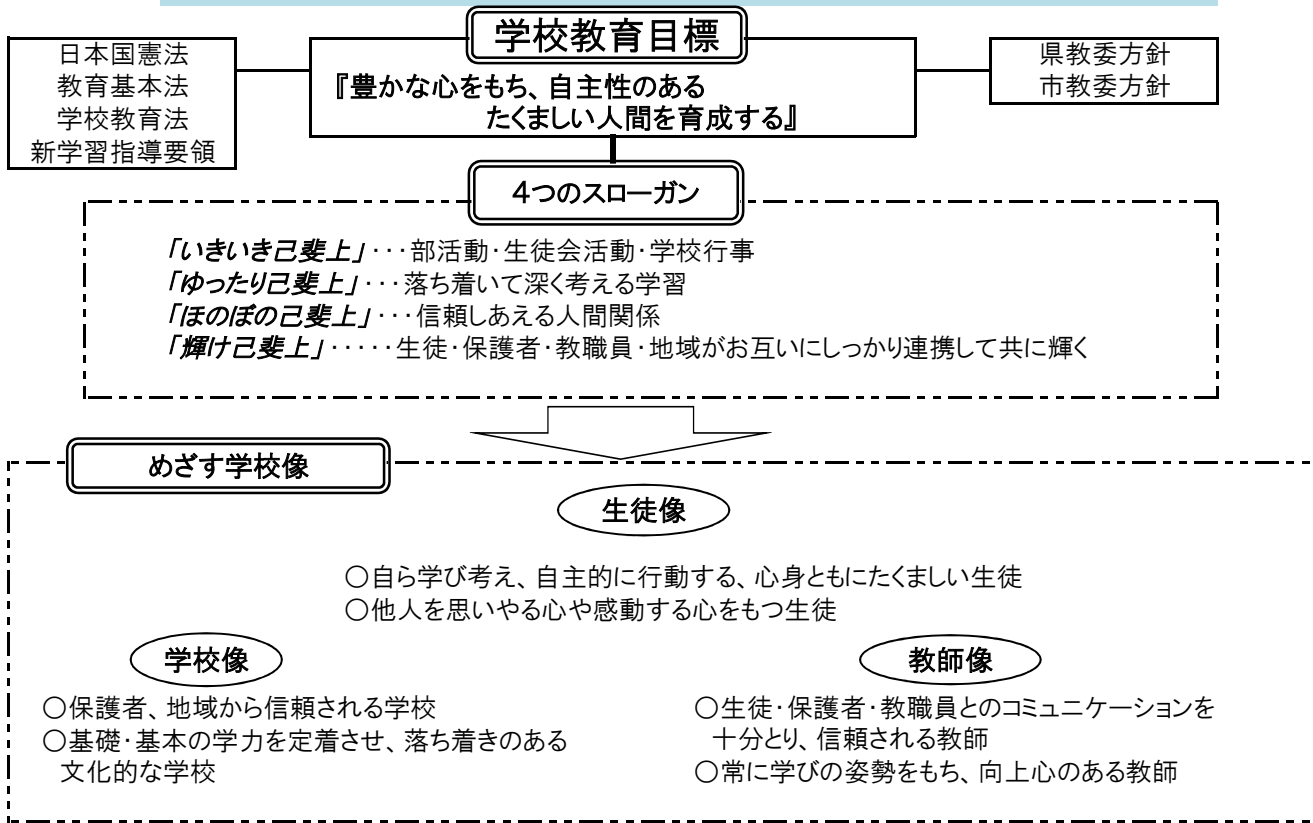
4 目標

<p>(中期経営重点目標)</p> <ol style="list-style-type: none"> 誰にでも分かりやすい授業づくりをめざし、基礎学力の向上を図る。 生徒が自己肯定感をもち、安心できる学級・学校づくりをめざす。 保護者、地域に対し、学校理解を図るための的確な情報提供を積極的に行う。 	<p>(評価指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> 年間2回の学校評価アンケートの指標を基に、各項目において、達成率を基準にして評価する。また、学校協力者会議等での助言や提言を受ける。 校内研修会においても、取組状況を把握し、改善に取り組む。
--	--

短期経営重点目標		評価指標	主な具体的方策
確かな学力	KUデザインに基づいた、学習環境整備を行い、基礎学力の定着を図る。	○授業中の板書や指示・説明がわかりやすいと答えた生徒の割合(95%以上を目指す。) ○「書く力」がついたと感じる生徒の割合(85%以上を目指す。) ○1日1時間以上家庭学習をする生徒の割合(80%以上を目指す。)	<ul style="list-style-type: none"> チェックリストで自己評価を行いながら、KUデザインに基づいた分かりやすい授業作りを行い、基礎基本の定着を図る。 「書く力」については、各教科等で書く際のまとめ方や表現法の指導を行うとともに、書かれた文章等への添削、指導を行う。 家庭学習の取組を通して1日1時間以上の学習習慣が身についた生徒を育てる。 「家庭学習の手引き」をオリエンテーション期間で活用し、家庭に配布する。教科での学習課題の量や質の工夫を行う。 「放課後学習会」や学級での班学習、「試験前学習日」等を計画する。子ども同士の関わり合いが出来やすい環境を整備して学習の援助の一つとする。 授業の中で必要になる「合理的配慮」事項を取り入れた目標設置と具体的対応を検討していく。
	言語活動の充実を図り、思考力、判断力、表現力を育てる。	○「KUデザインによる言語活動の充実」の評価項目で3.5ポイント以上を目指す。(教員) ○共同学習や話し合いの時に、自分の意見が言えたと答えた生徒の割合(80%以上を目指す。)	<ul style="list-style-type: none"> 「KUデザイン」を基に各教科指導において、聞く・話す、発表する、質問する等の場面を捉え、表現や思考のモデル等を示し、意識させることで言語活動の充実に努める。 話し合いの目標(ねらい)を明らかにした上で、共同学習やグループ活動が活かせる場面を設定する。 各教科で、言語活動の充実のための、「ねらい」「具体的取組」「重点取組」を設定する。 「KUデザインモデル」に基づく授業研究を定期的に行い、校内研修会で共有化する。 「授業公開週間」等を設定することで、お互いの授業を見て考える機会を増やす。
豊かな心	自尊心を育み、生徒同士のより良い人間関係づくりと連帯感のある学級づくりを行う。	○学級の係や役割を責任感を持って行い、そのことが周囲の仲間から認められていると感じる生徒の割合(80%以上を目指す。)	<ul style="list-style-type: none"> 「わたしの通知表」等を活用しての自己の振り返りを行う。 教員による学級集団づくりの交流や研修を兼ねた校内研修(生徒指導の三機能を含む)を計画的に行う。 教員や特別支援教育アシスタントとの連携を深め、情報の共有を深める。 生徒会を中心に行事の目的を明確にして、生徒同士を関わり合わせる取組を考える。 「いじめ撲滅キャンペーン」の取組を中心に、生徒が主体で考える方向を検討する。 各学期に1回の生徒向け「学校生活実態調査」の実施と保護者向けの「いじめ予防アンケート」を実施し、対応を考える。 教育相談日を設定し、その充実を図る。
安心・信頼	日々の生徒の様子や本校の教育内容が保護者や地域にいつそう理解が得られるようブログやホームページ等の充実を行う。	○授業や行事等を積極的に公開する。 ○ICT活用等の研修をさらに推し進める。	<ul style="list-style-type: none"> 出席表を作成し来校回数を記録することで行事や懇談会の時期や内容の検討等につなげる。保護者の年間学校来校回数の平均を5回以上を目指す。 PTA活動内容の周知を図るために、通信だよりだけでなく、ブログ等の活用を考える。 学校ブログの更なる充実を図る。(年間200回以上の掲載を行う。) 月に1回はホームページの更新をする。

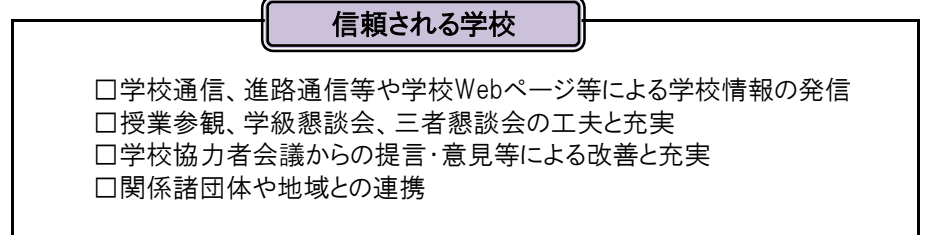
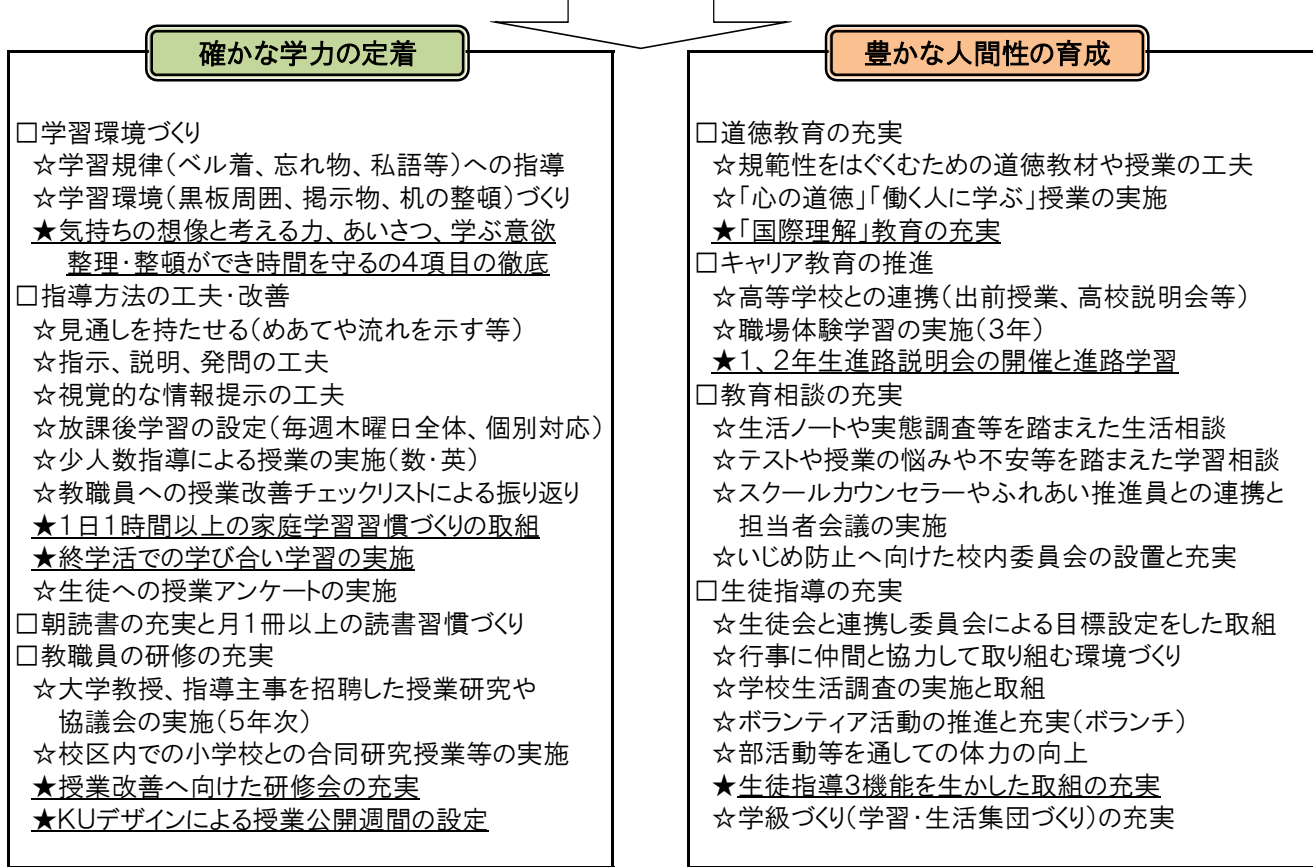
※評価指数の項目については、生徒の実態と具体的アンケート内容や評価方法を検討し変更する場合がある。

己斐上中 学校教育ビジョン



特別支援教育の視点をもった、学校づくり、授業づくり ～KUデザイン～

KUデザインによる全校への支援	情報共有・一貫指導	巡回相談指導を活用した個別の支援
<ul style="list-style-type: none"> ○KUデザインチェックリストによる自己評価、授業改善 ○KUデザイン実践事例集の作成 ○KUデザイン実践事例集による校内研修会実施 ○計画的な授業交流期間等の設定による実践共有 ○校内LANによるデータベース化と情報共有 		<ul style="list-style-type: none"> ○巡回相談指導時における個別の対応と研修会の実施 ○特別支援教育アシスタントの活用 ○個別の対応事例による研修会の実施 ○個別の指導計画、支援一覧表の作成と活用



※★の下線部:今年度重点化する項目